



日本基督教団

伝道推進室

今 こ そ 、 福 音 伝 道 の 前 進 の た め に !

suisinsitsu

CONせ合いせる 2~6/「リフォユース500ユースカンファレンス青年大会」報告 7/伝道のあゆみー湯沢教会 8/伝道推進室News発「伝道コラム」・お知らせ

Mikotoba

「あなたを離さない」

ルカによる福音書 第15章11~24節

恵悟 土浦教会牧師 嶋田

そして、彼はそこをたち、父親のもとに行った。ところが、 まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、憐れに 思い、走り寄って首を抱き、接吻した。

ルカによる福音書第 15章 20節

成人して間もない青年が、無差別に他人の命を奪う 事件が立て続けに起こっている。新幹線、交番、学校 が、ある日突然、凄惨な現場と化す。技術が発達し、 自由と豊かさを享受する中、人々が孤立し、他者への 感覚が失われて行く。現代社会が抱えている課題を突 き付けられている。

日系イギリス人作家、カズオ・イシグロさんの代表 作の一つ、『わたしを離さないで』(早川書房)。臓器 移植を目的とするクローン人間が造られるように なった社会が舞台。題名の由来にもなる印象的なシー ンがある。「提供者」を育てる施設の寮で、主人公の 少女が、お気に入りの曲「わたしを離さないで」を聞 き、歌いながら踊っている。「マダム」と呼ばれる施 設の創設に関わった人物が、その姿を見かけて涙を流 す。「提供」という自らの目的をまだ理解していなかっ た少女は、マダムが涙を流した理由を誤解してしま う。時を経て、マダム自身の口から、少女の姿に何を 見て、涙を流したのかを知らされる。

「新しい世界が足早にやってくる。科学が発達して、 効率もいい。古い病気に新しい治療法が見つかる。す ばらしい。でも、無慈悲で、残酷な世界でもある。そ こにこの少女がいた。目を固く閉じて、胸に古い世界 をしっかり抱きかかえている。心の中では消えつつあ



る世界だとわかっているのに、 それを抱き締めて、離さないで、 離さないでと懇願している。わ たしはそれを見たのです」。

ルカが記す、父に財産の分け 前を要求し、遠い地に旅立って

放蕩の限りをつくす息子の姿は、神から離れ、神から 得た財産(知恵、技術、命)を思いのままに用いて歩 む人間の姿に重なる。その歩みが行き着く末は、試練 の中で誰からも顧みられることが無い孤独という絶望 だった。

財産を良く用いることが出来ず、神と隣人との関わ りを断ち切ってしまう中、息子は我に返り、雇い人の 一人にでもしてもらおうと父のもとに帰って行く。し かし、父は、まだ遠く離れていたのに、息子を見つけて、 憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻し、子として 受け入れた。見つかった我が子を「わたしは決して離 さない」と言わんばかりの情熱的な愛。それは、独り 子を世に遣わし十字架に引き渡してまで、離れて行く 人々を救い出そうとする神の愛である。私たちは、こ の愛を知ることによって真の故郷を見出し、平安の内 に憩う者とされる。そこから生まれる交わりは、人々 を主へと招いて行く。

私たちも世にあって、父から得た財産を、思いのま まに用いようとしているのではないか。その時、私た ちから生まれる交わりは疎外と排除を生むことにな る。私たちが、主の業としての伝道を進めて行くこと が出来るとするならば、主イエスの十字架を通して示 される「あなたを離さない」という情熱的な愛を受け とめることにおいてである。財産を我が物顔で用いつ つ、神から離れ、隣人から孤立して行ってしまう自ら の惨めさに気付かされ、悔い改めつつ、主の愛に生か されて行く者とされたい。

リフォユース500 ユースカンファレンス《青年大会》

青年 1000 人が集い、捧げた 「宗教改革 500 周年記念礼拝」

2018年3月21日(水・祝) 青山学院大学ガウチャー記念礼拝堂



リフォユース 500 100人ゴスペル



(100 人ゴスペル ディレクター)





ナイト de ライト (前夜祭アーティスト



祈りが束ねられ、 「ユースカンファレンス」が実現

スタッフ/港南希望教会牧師 鈴木 義嗣

「桜と雪」という美しく不思議な光景の中、青山学 院ガウチャーホールに、1000人を越える青年が集ま り、宗教改革500周年記念の礼拝が献げられました。

「宗教改革 500 周年記念事業基本方針」が、以下の ように掲げられました。「日本基督教団(以下、教団)は、 2017年の『宗教改革 500年』を、福音伝道を推進す る契機の年として記念する。それは教団が、宗教改革 の福音主義的伝統に連なる教会だからである。このこ とは、『日本基督教団信仰告白』が、世界信条のみな らず、1517年に始まった宗教改革が生み出した数々 の福音主義的信仰告白および、信仰箇条をその土台と していることからも明らかである。…この機会に、教 団は、プロテスタント諸教会・諸教派のみならず、カ トリック教会をも含む広い教会一致運動(エキュメニ ズム)の祈りと交わりの中で、福音伝道の働きをより 一層大胆に進めていくことを表明する。また、キリス ト教学校、キリスト教社会事業諸団体と共に、日本社 会全体に向かって宗教改革的福音を証し、キリスト教 会が分裂ではなく一致を目指していることを広く知ら しめるものである。また、教団内部に向かっては、自 らがよって立つ信仰の土台を再確認し、教団全体に託 された伝道の使命を大胆に担うよう呼びかけるもので あるし。

この方針に基づき、「中高生大会」と共に、具体的 な検討が始まりました。そこで与えられたヴィジョン は、あまりに広大なものでした。しかし主は、そのヴィ ジョンを実現へと導いてくださいました。多くの祈り が集まりました。多くの賜物が集まりました。そして、 多くの青年が集まりました。

「リフォユース 500 青年大会を覚える祈祷会」(2月



《メッセンジャー》





晴佐久昌英神父



26日)が行われ、「プレカンファレンス」(3月10日) が行われました。前日には、「前夜祭」が行われ、そ の歩みの中で、多くの青年伝道のための祈りが束ねら れました。そして、「リフォユース500ユースカンファ レンス」が実現しました。

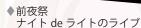
関野和寛師 (ルーテル東京教会牧師)、晴佐久昌英 神父(カトリック上野・浅草教会神父)、大嶋重徳師(キ リスト者学生会《KGK》総主事)、小林克哉師(日本 基督教団呉平安教会牧師)のメッセージが語られまし た。宗教改革のメッセージが、新たに響き、青年たち に対する、十字架と復活の主の選びと招きが力強く語 られました。

大会の初めに響いた「100人ゴスペル」による讃美、 「Ride on King Jesus. No man can a hinder me. (王 なる主イエスについて行こう。誰も引き離すことはで きない)」が響き、「神はあなたを決して見捨てない」と、 一人一人の心に慰めのメッセージが語られました。中 山有太師とナイト de ライトによる讃美、サルーキョ の特別讃美にも導かれながら、恵み溢れる時となりま

最後に、「新しいことが、今この地に起こる! しいことがこの日本に起こる!」と皆で讃美し、祝福 の内に派遣されました。青年のために、ますます祈り を広げたいと願います。









REPORT

前夜祭

2018年3月20日(火) 東京山手教会

ミッション、エンカレッジ、コネクトへ 備えのとき、「前夜祭」

スタッフ/太田八幡教会牧師 矢吹 大吾

宗教改革 500 年を記念した、「リフォユース 500 ユー スカンファレンス」(青年大会)。その前夜、東京山手 教会を会場に「前夜祭」が開催された。本大会に向け、 思いを整えるため有意義なひとときであった。

筆者が、中高生大会を含め、このリフォユースに関 わる機会を与えられたのは 2016 年 11 月。実行委員 会のもとにある総務係の働きを与えていただき、微力 ではあるが参加することが許された。出身神学校や教 派的背景の異なる教職方との協働は実に楽しいもので あった。事業方針にあるように、「各礼拝・集会参加 者が、宗教改革 500 周年の記念すべき年にキリスト 者として日本に生かされ、使命を与えられている栄光 を深く脳裏に刻みつける。また、共に神を誉め讃えて 献身の思いを新たにし、伝道の歩みへと踏み出すこと を目指すものである」(宗教改革 500 周年記念事業方 針 第39総会期第4回常議員会にて承認)ことを胸に、 準備を進めた。

また、青年大会には3つの目的が掲げられた。①ミッ ション 500 (宗教改革の源泉に立ち返り、主から託さ れたミッションを確認する)、②エンカレッジ(日本の 教会・キリスト教学校に集う青年ユースを力づける。 勇気づける)、③コネクト(教会次世代である青年ユー スを繋げる。交わりを作る)。前夜祭は、このための「備 え」のときであった。

3月20日前夜祭当日、朝早くから奉仕者たち (SCF・ACF・KGK 他青年ユース、教職) たちが会場 準備に奔走した。会場誘導から、物販コーナーの設置 等。天候は下り坂で雨模様。来場者が少ないのではと の不安もあったが、整理券配布に 100 名近くが並び、 会場には300名近くが足を運んだ。

出演者は 2006 年に北海道札幌市で結成された、希 望を歌う4人組ロックバンド、ナイトdeライト。ボー カル平野翔一、ギター三橋恵之矩、ベース長沢紘宣、 ドラム田中満矢の4人編成(全員キリスト者)。彼らは、 これまでに「終わらない夢」がコンサドーレ札幌公式 サポートソング・石屋製菓「白い恋人」のテレビ CM に採用、また、「虹」が大丸札幌店店内 BGM として 採用されるなど北海道を中心に活躍するバンドであ る。北海道から全国へ、全世界へ明日を生きる希望、 生きる力・勇気を、音楽を通して発信する。また、 2017 年 7 月には ZEPP 東京ダイバーシティワンマン ライブを敢行、成功させている。彼らは約300名近 くを前に 2 時間近く歌とトークを展開、単なるライ ブではなく、激しい曲調の中にも、鋭く響く福音を感 じることができた。

▶前夜祭開演を待つ来会者

前夜祭終了後、本大会に備え、希望者は宿泊施設(オ リンピックセンター)へと移動した。

最後に、前夜祭のために全面的に協力してくださり、 会場提供に応えてくださった東京山手教会・小野團三 先生をはじめ、執事会・教会の皆さんに感謝したい。



参加者の声





前夜祭、信仰が光に

富田林教会員 西野聡一郎

私は、宗教改革 500 年(厳密には 501 年目)の記念すべき年に、日本基督教団が他教派に呼びかけ開催された、リフォユース 500 青年大会に参加させていただくことができました。式典の前日に、渋谷の教会で行われた前夜祭を中心に、この貴重な体験を振り返りたいと思います。

今回の式典の「500」の意味は、宗教改革から 500 年を指しています。今から 500 年前の気の遠くなるような昔、キリスト教会は混迷の世を救う主の御言葉・福音を、悩み、苦しむ人たちに伝えるのに、様々な機能不全に陥っていました。そこに一石を投じたのが、後にプロテスタント教会の開祖となるマルティン・ルターでした。彼はヴィッテンベルクに掲げた 95 箇条の論題の中で、神と人間との真の関係について、人々に問うたのでした。

前夜祭では、ナイト de ライトという、牧師をその家庭に持つバンドが出演しました。ナイトは、文字通り夜を表します。夜に光をあてるーそれはまさに、500年の昔、ルターが目指した理想と同じ夢でした。

前夜祭は、強い信仰をもとにしながらも、軽妙なトークで非常に楽しい時を過ごすことができました。ナイト de ライトの4名は、様々なバンドソングの中で、信仰と人生について、面白いトークを行ってくれ、とても心が軽くなりました。今この時も、聖霊を豊かに与えてくださる主がいるからこそ、この貴重な式典は成功したと思います。夜まで続いた前夜祭は、信仰が現代社会の文字通り「光」「ライト」となることを予見させ、最高に熱烈に、楽しませていただくことができました。









メッセージ、心に

霊南坂教会員 藤本 浩美

- ◆小林先生の「たとえどんなに弱く小さいものであっても神様は決して見放されることはない」というメッセージが一番心に残っている。「神様が選んでくださった」という一番大事なことが力強く示され、神様をまっすぐ見据えて信仰を歩みたいと思えた。
- ◆大嶋先生が「このような大きな大会に参加するときは生き生きと信仰を表すことができても自分の教会にいるときや普段の生活でできているだろうか」とおっしゃっていたこともまさにその通りで、教会にいても自分と他者の信仰を比べて一喜一憂したり、キリスト教と関わりのない場所へ一歩踏み出すと教会に通っていることを言わないでいたりすることがある。そのギャップとどう向き合うかを考えさせられた。
- ◆関野先生、晴佐久神父のメッセージでは「見上げるべきは神様」であることが共通して語られ、教会や教派の違いを超えて繋がることができるはずだと示された。
 - 今回、リフォユースに多くの青年が集められともに 神様を賛美できたこということを一時的な感動や思い出として心に留めるのではなく、この出来事を きっかけとして青年たちとの交流や信仰の分かち合いを深めていきたい。 ノンクリスチャンの人たちに も少しでも伝えていきたい。
- ◆私自身はプレカンファレンス (3月 10日) や前夜祭、 100人ゴスペルにも参加した。

プレカンファレンスでは山口武春牧師(ニューホープ横浜)より、聖書からの学びの重要さを改めて知り、少しずつではあるが時間があるときには聖書をすすんで読むようになった。また、全てのプログラムにおいて、これまであまり触れることのなかったワーシップソングやクリスチャンバンドの演奏で神様を賛美することができ、新鮮な気持ちになれた。100人ゴスペルでは、歌詞ひとつひとつを神様に捧げられる感動を味わった。未信者であった学生時代にもゴスペルを経験したことがあったが、その当時と今とでは、歌う意味も喜びも全く違うものと感じることができた。教派は違っても、同じ信仰で繋がったメンバーとともに賛美できたことに感謝している。



大会会場前で並ぶ



爆笑!100ゴス!

仙台青葉荘教会員 斎藤 歩麦

3月初旬、青少年担当の荒井偉作牧師(名取教会) が春休みの青年イベント情報を共有してくださったの がリフォユース500に参加するきっかけでした。

宿泊申込みの際、「100人ゴスペルに参加するか」 という項目があり、そこで 100 人ゴスペルの存在を 知りました。興味はありましたが、知り合いが誰も 100 人ゴスペルに参加しない、かつ練習時間も限られ るので参加を躊躇していました。しかし荒井先生に「条 件が揃えば出られるよ。出たら? ま、本人がやりた いかどうかだけどねー」と言われ、私は元々「色々な 所に行って、やってこなかったことをしたい!」と思っ たのが今回の参加のきっかけだったことを思い出しま した。そこで私は 100 人ゴスペル「参加」にチェッ クをいれました。

100 人ゴスペル参加にあたって一番不安だったの は、やはり当日ぶっつけに近い状態で本番に臨むこと でした。当日の曲目も詳細も全く分からず、音程はと れるのか、歌詞は覚えられるのか、そもそも当日だけ で練習についていけるのか、頭の中はグルグル。

そんな中、前夜祭で再会した関東の友人 A さんが 私の不安を聞き、100人ゴスペルに参加するBさんを 紹介してくれました。おかげで私は当日の曲目とその 動画を入手。宿泊先のオリンピックセンターで寝る前 に一通り聞くと、知っている曲もあったので不安だっ た気持ちは少し楽になりました。

当日そのお二人と青山学院大学へ向かう途中、同じ く 100 人ゴスペルに参加する C さんと出会い意気投 合。私は最初ソプラノ希望でしたが、人数調整でアル トに変更。でも音程はリードのおかげで何とか取るこ とができ、また歌詞も周りの方々がフォローしてくれ たので拙いながらも大体は覚えることができました。

そして迎えた本番。とても楽しくのびのびと賛美す ることができました! 何かと不安な中、最後まで出 来たのは周りの方々、更に神様の助けがあったからこ そ。神様ありがとう!

時間の関係で賛美できなかった一曲は、次の機会の 楽しみにとっておこうと思います。





◆サルーキ=の熱演



伝道推進室報 №11 2018

「宗教改革 500 周年記念 青年大会」を終えて

日本キリスト教史における奇跡 から明日へ

日本基督教団主催で宗教改革を記念する超教派の青年大 会を開催すること。誰も経験したことのない集会を企画し 運営する途上で様々な不安が襲ってきました。臆病の霊に 支配されそうになったことが多々ありました。委員の内外 に様々な困難が生じました。ある時その理由に気付きまし た。この大会は神様の栄光が現される特別な機会として用 いられる。だからこそ、悪魔の攻撃と誘惑があるのだと。 準備を進めつつ確信させられたことは、神様のこの国への 思いは私どもの思いをはるかに超えて強く確かであるとい うことです。日本基督教団の各地の同志たちのみならず、 教団外にもこの会のために祈り支える同志が次々と増し加 えられていきました。神様の熱意が日本基督教団を越えて 日本の諸教会に働いたからこそ、異なる教団、教会の兄弟 姉妹が心を一つしてこの会のために汗を流して働くことが できました。このことは日本のキリスト教史における奇跡 と言えるのではないでしょうか。青山学院宗教センターを はじめとして、開催のために労してくださった多くの皆様 方に心より御礼を申し上げます。

以下これからの日本基督教団の中高生・青年伝道のために委員会で共有された課題を中心に、私が思うところを提言として記したいと思います。

新しい皮袋を

青年伝道専門の部署を半世紀ぶりに教団の中に設置することが急務です。リフォユース 500、そして 2014 年の御殿場東山荘での教会中高生・青年大会も、実行委員は伝道委員会、教育委員会、伝道推進室の委員から選出されました。この方法は各委員会との連携の意味で有益ですが、兼任のため委員の負担が大きくなります。中高生・青年伝道に集中し力を注ぐ働き手たちが必要です。専任の委員を立てることできめ細やかな活動が展開できるようになるでしょう。実行委員だけで働きを担うことはできません。各地に協力委員が立てられることも必要です。そうなれば数年に一度の大会に限らず、地域単位の会を頻繁に開催することが可能になるでしょう。

そのためには「つなぐ」ことが大切です。

コネクト (つなげること)

これはユースカンファレンス (教会青年大会) で掲げられた目的の一つです。これからの青年伝道は、まだつながっていない、点と点、線と線をつなげていくことが求められています。つながりが生まれることによって、広がりのある伝道の協力が可能になります。以下の側面が考えられます。

《教区を超えたつながり》 教区、分区、地区、支区におい



◆開演前の祈りで 心をひとつに

青年大会実行委員長/青山教会牧師 増田 将平

て中高生、青年のための活動が各地で続けられています。これらの働きがより一層強められ、広がりを持つためにお互いのつながりを教団レベルで作ることは有益だと思います。教育委員会主催の「青年担当者会」は各地の活動を担う同志たちの情報交換の機会となっています。例えば、この会で互いの課題を共有した上で、今後どのような協力ができるかを話し合ってみてはどうでしょうか。

《有志団体とのつながり》 様々な有志団体によるキャンプ、修養会が長年継続されています。これらの会には多くの経験が蓄積されており、参加者が成長してスタッフとして加わっています。独自の豊かな歴史を刻んできたこれらの会と教団の青年伝道の連携の可能性を模索してみてはどうでしょうか。

《キリスト教学校とのつながり》 中高生大会では長崎の活水学院から派遣された教務教師の先生と高校生たちが参加したことは大きな喜びでした。教務教師が孤軍奮闘しないように教団として何ができるでしょうか。キリスト教学校の働きと教団の青年伝道が連動することが重要であると考えます。まずは各地の教務教師をお迎えし、お話を伺い、顔と顔を合わせての情報共有、交流の機会を持つことが考えられます。

《教団を超えたつながり》 夏の教会中高生大会では KGK (キリスト者学生会)のメンバーが大会スタッフとして加わり礼拝の賛美を担当し、一つのグループを担当しました。夜のスタッフミーティングでは KGK の 70 年の働きについての学びの時が持たれました。また、ユースカンファレンスの運営スタッフは教派、教団を超えた兄弟姉妹たちによって構成されました。40 近い団体が協賛に名を連ね、ブースに出展しました。献金を献げてくださった団体も多くあります。このように共に会を形作ることに加えて KGK や hi-b.a.(高校生聖書伝道協会)といった中高生、大学生伝道に携わっている団体から学ぶ機会を設けることは大切だと思います。

エンカレッジ (励ますこと)

すべては次世代の中高生・青年たちを励ますためです。 若者たちが様々な集いを通して仲間たちと出会い、キリスト者として生きることの励ましを与えることができたらと願います。これからは教職中心ではなく、宗教改革の源泉である「全信徒祭司性」に立ち返って青年のスタッフを育成することも求められています。

そして中高生・青年伝道はお金がかかります。一人でも 多くの若者が参加することができるように献金運動によっ てこの働きが展開されていくことが求められています。

《秋田県湯沢市》 湯沢教会

伝道協力の拡がりの中で

湯沢教会牧師 田谷 元義

イエスは、ヨハネが捕らえられたと聞き、ガリラヤに退か れた。そして、ナザレを離れ、ゼブルンとナフタリの地方 にある湖畔の町カファルナウムに来て住まわれた。それは、 預言者イザヤを通して言われていたことが実現するためで あった。『ゼブルンの地とナフタリの地、湖沿いの道、ヨル ダン川のかなたの地、異邦人のガリラヤ、暗闇に住む民は 大きな光を見、死の陰の地に住む者に光が射し込んだ。』そ のときから、イエスは、「悔い改めよ。天の国は近づいた」 と言って、宣べ伝え始められた。

マタイによる福音書 4章 12~17節

日本基督教団湯沢教会は昨年、2017年9月に 教会創立 60 周年を迎えました (教会創立 1957 年)。秋田県の最も南に位置する教会です。現住 陪餐会員 21 名、礼拝平均出席人数約 16 名 (2017年度朝拝 13名夕拝 3名) という地方の小 規模教会の一つです。7、80歳代の高齢の信徒の 方々が多く、若い方々は少なく、信仰の継承にお いて課題を抱えております。教会学校における歩 みにおいても 10、20 年以上前に比べると生徒数 が著しい減少傾向の中にあり、やはり課題を抱え ていますが、子供たちの出席が全くない主の日に も教師たちで教会学校の礼拝を守り御言葉に聴 き、少ないながらも繋がりのある貴重な子供たち を覚え、また町や地域の子供たちを覚えて祈り続 ける歩みをなしています。

秋田県は現在、全国で最も人口が加速度的に減 少し、高齢化が進んでいる県です。かつてバブル 経済で夢見、潤っていた時代を今や遠く通り過ぎ てしまい、私たちの教会の立つ町や地域に暮らす 多くの方々も立ち尽くしてしまう様な状況にある ように思われます。町の商店街を歩いてもシャッ ターで閉じられた店舗も多く寂しくも映ります。 昔と比べると子どもたちの数も少なくなり、一方 でご高齢の方々の人口の割合が年々増えていま す。

私たちの教会も地域の少子高齢化や人口減少の 影響を深く受けつつも、なお週毎に主日礼拝をさ さげ、御言葉に聴き、主に在る信仰と希望の内に、 主の群れとして歩み続けています。また都市部の 教会ですと教会員数も多く、単独で歩める教会も 多いことと思いますが、地方では小規模教会が多 く、互いに祈り合う事と共に協力が欠かせません。

私たちの教会では、教区や地区との宣教協力の ほか、2009 年度から近隣の秋南教会との相互宣 教協力の関わりの中で主に在る歩みを重ねていま す。秋南教会は創立以来百年以上にわたって秋田 県南部一帯に広域伝道を為し、現在、六会堂と一 集会所をもち、歩みを為す教会です。元々、湯沢 教会は、70年以上前に遡って湯沢の町への秋南 教会の太平洋戦争終戦直後よりの開拓伝道によっ て始まった教会ですが、現在、ほぼ月に一度、主 として同教会の上野台会堂と月によっては生保内 会堂で礼拝奉仕をさせて頂いています。両会堂共 に湯沢教会よりももうひと回り上の世代の信徒の 方々が多いのですが、礼拝において聖書の御言葉 に向き合う姿勢は真摯でいらっしゃり、堅実な信 仰者としての御姿にいつも主に在って励まされて

都市部にある教会も継続的に尊い祈りをもって 私たちの教会を覚えてご支援くださることを感謝 しております。都内のある教会からは「こころの 友」による文書伝道応援とまた10年以上にわたっ て隔年で行われている教会バザーへのご献品を中 心として主に在る真摯な盲教協力を続けてくださ り、心から感謝しております。都市部の規模の大 きな教会と地方の小規模教会が信仰の一致をもっ てこれから一層の協力関係の内に、共に歩むべき 時代が到来しているのではないでしょうか。

います。そして点から線へ、線から面へというよ

うに伝道協力によって拡がりを与えられているこ

とに主の恵みと導きを覚えて感謝しております。

上記の聖句は教会創立 60 周年記念礼拝の際に 備えられました聖書の御言葉です。私たちの教会 が立てられている町や地域の状況が、聖書の歴史 の背景にある主イエスの伝道活動の出発の地と なったガリラヤの様に重なって、記念礼拝では御 言葉が心に響いてきました。そして時代を越えて 主の十字架の福音の御言葉を弛まず宣べ伝えて、 復活の主の救いと命の希望の中にこそ、私たちの 教会が歩み続けるべき道が示されました。

「暗闇に住む民は大きな光を見、死の陰の地に 住む者に光が射し込んだ」との御言葉がさし示す 主の祝福の道に、私たちの教会も含んで、今、様々 な課題に直面している全国のすべての教会が共に 主によって導かれますことをお祈りいたします。

伝道川柳

詠み人 **3**

shiritori

《しりとりスタート!》 食卓も 主から賜る ご委託場 ▶ バッヂつけ 今日は東へ 明日は西 ▶

だ萎んでおりません。せん。老眼鏡と腰痛バンドの できるようにと。 れて元気をもらいました。 めて来られた方や知らない方でも集えるように、 (来てもらい 今年度から広島教会では朝礼拝後に毎週 はキリスト教にはあり がて60 「リフォユ なります。 そのため ース500青年大会」 律百円で飲み食 ませ 負けられまへんなー 『もう還暦です に お世話になっています。 コストコ隊を作っ と強がりを言いつつも、 放題にしています。 のビデオを見ました。 ね とおっしゃる信徒さん て安価なコーヒー そして隣になっ | | | | 今のところちょっと 身体と心の衰えは隠 + 伝道への思いはま 若い を始めました。 た方と自然に 方々 -豆とパン の熱 意に を買 h だま なも 服 話 せ が初 ま

西中国教区・広島教会 武田 真治

伝道推進室 News の新連載コラム「しりとり伝道川柳」では、全国の伝道推進室協力委員(各教区 1 名)の皆さまに、「伝道に関わって全く自由に」川柳と文章を寄せていただきます。川柳の最後の言葉を「尻とり」して、今号執筆者の指名により、次号の執筆者に繋ぎます。乞うご期待!

伝道トラクトをご活用ください



問い合わせ・ お申し込みは Tel 03-3202-0541 Fax 03-3207-3918 E-mail dendo-s@uccj.org

教会名等の刷込 なし… 1 枚 10 円、刷込 あり… 1 枚 12 円 (山北宣久トラクトは刷込の有無にかかわらず 1 枚 15 円) 教団ホームページから購入申込書をダウンロードできます。

伝道推進室 維持献金のお願い

伝道推進室の働きは皆さまの祈りと献金によって 支えられています。伝道キャラバンや伝道集会を 行うための講師派遣などご相談に 応じます。

一人でも多くの方が主と出会う 機会が与えられますよう、祈り お捧げください。

《郵便振替口座》

00150-4-338628 日本基督教団伝道推進室

DENDO WISIN

《伝道推進室基本方針》

日本基督教団は、聖なる公同の教会に連なる福音主義合同教会である。本教団は、 簡易信条と公会主義の伝統を継承しつつ、十字架と復活の主のご委託に応えて、日 本伝道の幻に仕える。伝道推進室は、伝道委員会のもとに設置された機関であり、『日 本基督教団信仰告白』と『日本基督教団教憲教規』に基づく信仰の一致をもって、 さらには将来の『伝道局』構想を視野に入れつつ、教団全体における伝道の実践と 研究に取り組み、教団内諸教会、諸団体における伝道の推進に仕えるために活動する。

●発行者/石橋秀雄 ●発行日/2018年9月30日

伝道推進室報 No.11

●発行所/**日本基督教団 伝道推進室**

《日本基督教団事務局内》

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-31 〈郵便振替 **00150-4-338628**〉 TEL 03-**3202-0541** FAX 03-**3207-3918** URL http://uccj.org

編集後記

- ★主の体なる教会は契約共同体。約束を大切にし、それを重んじて、そこで一致してきたものです。その軸を何度でも確認しつつ、ブレることなく、そこにある恵みを心に刻みたく願います。
- ★「伝道」という言葉の内実を明確に表す明日の「日本基督教団」をご一緒に望み見て、 これを読んで下さっている「貴方様」(あなたさま)にエールを送ります。

(広報実務委員会)

9